

第2学年英語科学習指導案

日 時 平成24年11月8日(木) 4校時

学 級 2年1組(男子19名 女子17名 計36名)

授業者 教諭 三戸 真丈

1 単元名 Sunshine English Course 2 My Project 5 将来の夢を語ろう

2 単元について

(1) 教材について

本単元は夢を語るために必要な既習表現(5課の接続詞if, when、6課のto不定詞、7課の動名詞など)を活用して、自分の夢について英語でスピーチ原稿を作り、発表することがねらいである。プロゴルファーの石川遼選手が、小学校6年生の時に書いた「将来の自分」という作文がインターネット上で紹介されている。強い信念と調査に裏付けられた彼の「未来予想図(予告)」はほぼ達成されている。昨今、具体的な夢をもてない中学生が増えているが、この課を通して自分の将来について考え、その実現に向けて努力することの大切さに気付かせたい。

また、グループ活動やクラス発表などを通して「読むこと、書くこと、話すこと、聞くこと」の4技能を駆使し、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う姿勢を育てたい。学習指導要領では、2内容(1)言語活動 イ話すこと(イ)(オ)とエ書くこと(オ)にあたる。

(2) 生徒について

生徒は全体的に素直で、明るく、授業態度も良好である。男女の仲も良く、グループ学習などでもお互いに前向きな意見を出したり、分からない生徒に丁寧に教えたりする優しさが見られる。また、英語の授業にも意欲的に臨む生徒が多く、活発に意見を出したり発表したりすることができる。

昨年度の学習定着度状況調査の結果では、「聞くこと」は県平均並みであったが、「読むこと」「書くこと」においては2~5ポイント下回った。また、CRTの結果では、すべての観点で下回り、特に理解の能力が低かった。生徒の意識調査では、「英語の学習で最も難しいと感じるのは」の問いに「英語を話すこと」が42.9%、「英語を書くこと」40.0%となっており、「表現の能力」の育成に重点を置いて指導をしていきたい。また、「英語の授業の内容は分かりますか」の問いに対しては、「分かる」が20.0%、「まあまあ分かる」が51.5%という結果であった。

基本的な表現や既習事項を振り返りつつ、自分の夢を語るのに必要な表現パターンを提示し、英語が苦手な生徒もチャレンジできるような工夫をし、展開していきたい。

(3) 指導について

My Projectの学習は、学期の最初に目指すゴールとして、通常課に入る前に生徒に見せ、見通しをもたせておきたい。そのことにより、通常課に出てくるMy Projectとの関連事項をチェックし、「今の活動は何のためか」「どこからつながり、どこへ向かうのか」「どんなスキルが最低限必要なのか」というイメージと見通しをもたせながら指導したい。

また、スピーチ原稿を無理なく書くことができるようにするために、普段からマッピングを利用したretelling活動を充実させていきたい。さらに、日常的にグループ活動を取り入れることにより、他者の考えを知り、自分の考えに気付いたり、そこから自分の考えに自信をもったりできるような学び合いの場面を設定し、英語で話すことからまとまりのある文を書くことへつなげていきたい。

3 単元の指導・評価計画（3時間）

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> サンプル文のマッピングを参考にし、自分のスピーチ原稿の土台を作ることができる。 マッピングを基に、相手に伝わるスピーチ原稿を書き、それを発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> プロゴルファーの石川遼選手の小学校卒業作文を読んで、その構成・内容を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を用いて文を正しく作ることができる。

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	将来の夢を語るためのスピーチ原稿の作り方を理解する。	スピーチ原稿の作り方がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> 石川遼選手の書いたスピーチを読んで理解することができる。(理解) どのような構成でスピーチが書かれているかを理解することができる。(理解) 	<ul style="list-style-type: none"> 発問 ワークシート
2 本時	将来の夢のスピーチ原稿を構想する。	マッピングを利用してスピーチ原稿を構想することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ペア活動やグループ活動を通してコミュニケーション活動を積極的に行う。 (関心・意欲・態度) 将来の夢のスピーチ原稿を構想し、発表し合うことができる。(表現) 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 ワークシート
3	スピーチ原稿を完成させ、発表する。	スピーチ原稿の構成を考えて書き、発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を用いて文を正しく書くことができる。 (知識・理解) 相手に伝わるような工夫をして書き、発表することができる。(表現) 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 発表原稿 ワークシート

4 本時の指導

(1) 目標

- ① ペア活動やグループ活動を通して、英語によるコミュニケーション活動ができる。
- ② 将来の夢のスピーチ原稿を構想し、発表し合うことができる。

(2) 評価規準

- ① ペア活動やグループ活動を通して英語によるコミュニケーション活動を積極的に行おうとしている。

(コミュニケーション活動への関心・意欲・態度)

- ② 将来の夢のスピーチ原稿を構想し、相手に伝わるように発表し合うことができる。

(表現の能力)

(3) 本時の展開

段階	学習内容	形態	指導上の工夫及び留意点	評価(観点、方法)	資料
導 入 10 分	0 3分前学習(英語の歌)	一斉			紙 板 書
	1 あいさつ				
	2 Basic Dialogのグループ学習 ・巻末のBasic Dialogをグループで練習	ペア	・分からない場合はヒントを出す		
	3 課題の確認 ・前時の復習と教師の子供の頃の夢を聞く	一斉			
将来の夢のスピーチ原稿を構想し、発表しよう					
展 開 35 分	4 マッピング ・将来の夢について構造マップにまとめる	個人	・なるべくキーワードとなる英語だけを使う		WS 紙 板 書
	5 練習 ・構造マップをもとにそれぞれ練習する	個人	・PROGRAM 5～7で使ったものを黒板に貼っておく ・使える定型文を確認する	評価規準① ○英語で積極的にコミュニケーションをしている(観察)	
	6 Speaking活動(グループ) ・構造マップをみながら、将来の夢について英語で述べる	グループ	・相手の話を聞くときはうなずきや聞き返しを入れるようにする	評価規準② ○構造マップをもとに将来の夢について伝える(ワークシー	
	7 シェアリング(全体) ・数点をみんなに紹介し、良い点やまねしたい点を述べる	一斉	・良い点を見つけられるように聞く		

				ト)
	言語活動：自分の将来の夢について英語で考え、伝える。 活動⑥			
終 結 5 分	8 振り返り ・本時について振り返り、学習チェックシートに記入する 9 次時の予告（ライティング） 10 あいさつ	個人	・スピーチ原稿を書く ことを話す。	